

令和 1 年 8 月 8 日

## 若手研究者海外挑戦プログラム報告書

独立行政法人日本学術振興会 理事長 殿

受付番号 201880117

氏 名

田中 文子

(氏名は必ず自署すること)

若手研究者海外挑戦プログラムによる派遣を終了しましたので、下記のとおり報告いたします。  
なお、下記記載の内容については相違ありません。

### 記

1. 派遣先：都市名 イサカ (国名 米国)
2. 研究課題名 (和文) : カイ・フン研究
3. 派遣期間：平成 30 年 8 月 1 日 ~ 令和 1 年 7 月 31 日 (365日間)
4. 受入機関名・部局名：コーネル大学 アジア研究
5. 派遣先で従事した研究内容と研究状況

派遣先では、受け入れ研究者である Brett de Bary 教授の指導のもと、フランス植民地時代に活躍したベトナム人文学者カイ・フン(Khái Hưng)の研究を行った。ベトナム研究者である Keith Taylor 教授のゼミ、酒井直樹教授による「翻訳」の授業、および Arnika Fuhrmann 教授による「デジタル・アジア」の授業を聴講することができ、学術研究への重要な視点を得ることができた。また、派遣先における東南アジアプログラムのシリーズ講義および大学院生学会を聴講し、最新の東南アジア研究に刺激を受けた。特に、派遣先のコーネル大学図書館における東南アジアコレクションは、現在のベトナムでは収集が困難な、旧南ベトナムで出版された雑誌・本が非常に充実しており、これまで未入手であったカイ・フンの作品およびカイ・フン作品の批評等を新たに収集し、今後カイ・フン研究を展開して行くにあたり、必要な基礎資料の殆どを集めることができた。

4月には、ウィスコンシン大学マディソン校において、トランスアジア大学院生学会「Within and Beyond Asia」に参加し、カイ・フンの短編『ハイン (Hạnh)』とグエン・ホン (Nguyễn Hồng) の短編『幼き日々(Những ngày thơ ấu)』を比較した研究発表を行った。当学会では、質疑応答を通して、自身が発表した研究内容の課題を認識することができた。また、滞在先のイサカで開催された、ベトナム系アメリカ人作家 Viet Thanh Nguyen のトークイベントを聴きに行き、「難民文学」について学び、ベトナム文学を研究する一人として、彼らの文学を研究していくことの重要性を実感した。

## 6.研究成果発表等の見通し及び今後の研究計画の方向性

現在、2019年4月にウィスコンシン大学マディソン校での学会で発表した内容を補足・修正した英文の論文を、学術誌に掲載すべく取り組んでいる。今後は、Brett de Bary 教授のご指導によって着想を得た、カイ・フン、およびカイ・フンと同時代のベトナム人作家たちの言語の変遷について研究を進めていきたい。

また、派遣先で収集した資料をもとに、カイ・フンの全作品のリストを作成し、新たな研究を展開していきたい。

これまでベトナム国内およびアメリカにて発表を行ってきたが、今後は、日本国内でも積極的に発表の場を探していきたい。

なお、派遣先のイサカに向かう数日前には、南カリフォルニアで開催された、「ベトナム語教師研修会」にてカイ・フンの一作品の分析研究を発表し、アメリカに暮らすベトナム出身のベトナム語教師の方々に、カイ・フンについて、より深く知ってもらうことができた。

## 7.本プログラムに採用されたことで得られたこと

これまで未入手であったベトナム語資料を収集することが最大の目的であったが、英語で執筆されたフランス植民地時代のベトナムに関する資料、英語に翻訳された文学理論など、自身の研究に役立つ様々な資料を入手することができた。

また、派遣先にて三つの授業を聴講し、それぞれの授業で課題として出された文献・資料を読み、各教授の講義を聴き、それぞれレポートを提出したことは、貴重な学びの経験となった。同時に、Brett de Bary 教授による個人指導を受けたことで、今後研究を進めていくにあたって、念頭に置くべき重要な視点をいくつも得ることができた。

さらに、アジア研究の最新の動向を知り、各大学の教授および学生たちの意欲的な研究を見聞し、非常に刺激を受けた。

特に、現地アメリカにて学会に参加できたことは、自身にとって良い経験となった。学会参加時には、派遣先の大学院およびアジア研究学科の双方から旅費補助金をいただくことができ、学会への参加を奨励する学校の体制に感服させられた。